山林經濟說畧

841

114
A4488

山林經済說畧

帝國圖書館藏

山林經済ノ要領

山林經済学ハ往々農業經済学ト相合スルノ件々甚タ多シト雖モ其大體ヲ異ニスル者先ツ山林学ニ在テハ一ニ天然ノ生産力ヲ恃ミ萬之ニ依頼スルノ外ナクシテ何如ニ人力ヲ労シ資本ヲ費シテ之ヲ翼賛スルモ苟モ其生産力ヲ増成スルヿ能ハス故ニ人力ヲ用フルハ唯其生産自殖ノ道ニ障碍タラン者ヲ刻除シ曰テ以テ其

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

生産力ノ天然ヲ全ウセシムルニ在ルノミ蓋シ
斯ノ如クスルモ將タ又大ニ其生産ヲ増殖スル
ヿ無カル可シ
然ト雖モ山林經済学ヲ以テ苟モ独立ノ一学業
タラサル者ト想像ス可キニ非ス元来此学ノ他
業ト異ナル所以ハ其表向外形ノ功働甚タ限狹
ナルノミナラス殊ニ甚タ遲漫ニシテ其功働ト
称スル者唯其地力ヲ細察シ其天然ノ開進ヲ自
在ナラシメ其障碍ト為ラン者ヲ刦除スル等ノ
数件ニ限ルヲ以テナリ故ニ管林上人力ヲ用フ
ルハ実ニ甚タ少ニシテ今夫レ日耳曼里法方一
里ノ三分一ニ居ル林地ヲ管理スルカ如キハ僅
カニ管林官一名ノ上トシ下ニ労動者十三四名
ヲ附スル時ハ殊ニ以テ足レリト為ス可シ如之
木ヲ伐リ之ヲ運輸スル如キノ労ト雖モ其人力
或ハ動物力ヲ用フルヿ其林地ノ廣狹ニ比シ亦
甚タ少ナキニ居レリ抑宇内森林ノ地上ヲ蓋フ
ハ其比例甚タ大ニシテ普魯西ノ如キハ其森林
ノ廣サ幾ント耕地ノ六十二分半耕地ヲ百分ト看テ云フ以下之ニ倣ヘニ居リ

ハ其四十分七五ニ居リ就中巴故ノ如キハ其全州三十二分二ハ皆ナ森林ヲ以テ鎖遮セリ是ヲ以テ山林ノ学ハ一國ノ經済上実ニ緊要ノ部曲ト為スナリ

抑山林ニ在テ最モ他ト情況ヲ異ニスルハ独リ林樹ニ限リ毫モ人力ノ培養ヲ俟タスシテ自ラ落葉ノ為メニ其成育ヲ得又其果実ヲ四散シ播シテ自ラ其生殖ヲ計ルニ在テ彼ノ人力ノ如キハ唯其林木ノ種類ヲ変シ若クハ新気ノ流通ヲ善クセントト欲スルノ時ニ非ラサレハ固ヨリ用フル所ナク仮令此等ノ時期ニ際スルト雖モ亦甚タ簡単ナル勤労ノ施セハ以テ人間一代ノ餘其效驗ヲ維持スルニ足ル可シ故ニ材木収納ノ時期ト雖モ之カ為メニスル勤労ハ甚タ少ナルノミナラス殊ニ此等伐木ノ挙ハ大抵冬候ニ在テ之ヲ行フ常タレハ會農事ノ間ナルニ際スルヲ以テ曽テ人力欠乏ノ不便ニ陥ユルノ憂慮ナシ加之其材木ヲ貯存スルニモ唯其空気ノ流通ヲ謀リ積テ之ヲ堆畳ト為シ以テ專ラ其腐朽ヲ避クルニ注意スル如キノ労ヲ除クノ外更ニ

亦屈指ス可キ勤労ナシ故ニ人畜器械等ヲ多ク
恒久ニ備フルヲ要セサルナリ蓋シ収納ノ材木
最モ善良ニシテ許多アルハ多年人力ヲ施サヽ
ル森林ニ限ルカ故ニ顧ミルニ山林ニ費スノ資
本勤労ハ必ス多年ノ後ニ非ラサレハ其成績ヲ
顕ハスヿナク其資本勤労ヲ施スノ人ニシテ自
ラ豊饒ナル結果ヲ覩ルハ常ニ稀レナリ凡ソ山
林ノ業ハ農藝牧畜等ノ次列ニ位スル者ニシテ
之ニ用フルノ土地ハ更ニ劣質下等ナルノミナ
ラス殊ニ禾穀ノ為メニ貴フ可ラサル土地ニ在
テ却テ其生産有功ナルヲ常トス他ナシ林木ハ
総シテ其培養ヲ空気ヨリ得ル者ニシテ動カ土
地ノ培養質ヲ選ハス唯其地質ノ固凝ナルヲ以
テ貴フ所ト為セハナリ故ニ樹木ノ常ニ根茎ノ
長サニ比シテ其丈ケ頗ル長高ナルハ即チ其徴
候ト知ル可シ是故ニ森林ハ大約僻遠不毛ノ地
ニ置ク常ニシテ就中森林ハ其地位耕地等ノ
リ更ニ角度此ニ云フ角度ハ平地ト斜地ノ相対
合スル角度ナリ蓋シ地球ノ平面ニ垂直線ヲ畫スル者ハ以下度数ヲ指ス
ル者ハ斜地ノ幾急ヲ示ス者ヲ角度即チ九十
度ノ角度ト云フ故ニ本文ノ度数皆ナ之ニ準照
シテ知ル可シ鋭キヲ貴ヒ殊ニ空気流通上ヨリ考フ

ルモ亦其ルノ故ハ一般ニ丘陵ト岳等ノ斜地ヲ
以テ最モ善良ノ位置ト為スナリ而シテ其比例
耕耘ノ如キハ唯角度二十度以内ノ地位ニシテ
限リ牧地ハ僅カニ三十度ニ至ルヲ得然ルニ森
林地ノ如キハ其生殖四十度ノ地位ニ適当ナル
ノミナラス山國ノ大ナル岩石上ト雖モ亦敢テ
生殖ヲ難ンスルヿナキナリ
山林ノ生産ハ其概計他業ノ生産ヨリテ更ニ小ナ
リト雖モ亦其生産ノ費用甚タ少ナルカ故ニ其
概計中正味ノ生産ハ更ニ尋キヿ常ナリ嘗テ管
林局ノ計算ニ云フ凡ソ山林ニ費ス生産ノ費用
ハ大畧産物ノ概計三割二分ノ平均ニ位スト実
ニ巴敦ハドン ニ於テハ此費用生産概計ノ四割二分ニ
位シ威丁堡ウヒテンベルク ハ三割四分ニ位シ仏蘭西ハ唯僅カ
ニ一割五分ニ位ス然ト雖モ世往々山林ヲ有ス
ルハ牧地若クハ耕地ヲ有スルヨリ更ニ歳入ノ
少キヲ実見ス可シ然ルニ其原ツク所ハ亡ニ非
ラスシテ現今尚材木ノ供給到ル処ニ充満々サ
ルハナク且ツ其代用ト為ス可キ品物石炭鉄ノ類ヲ云フ
甚タ多キニ日ル共シテ今仮令洲ニ於テ材

木ノ價金一般ニ騰シタルノミナラス材木運
輸ノ方ニ亦之ヲ從前重物ヲ運輸スルニ唯水上
ノミニ依頼セシ時ニ比スレハ更ニ容易ニシテ
且ツ更ニ遠地ニ運ブヿヲ得ルニ至ルト雖モ然
シテ林地ノ利益ハ唯之ニ放埋スル財本高ノ三
分乃至四分ヲ超ユルヿナシ而シテ今同價上ヨ
リ之ヲ云ヘハ材木ハ其量他ノ産物ヨリ更ニ甚
タ許多ナル者ニシテ管林官某氏等ハ已ニ次条
ノ如キヿモ説述セシヿアリ即チ其言ニ曰ク凡
ソ一家日用ノ諸物中其用フルノ量独リ薪炭ノ
如ク許多ナル者ナクシテ今仮令其日用ノ諸物
ヲ合一スト雖モ遠ク薪料一半ノ量ナカル可シ
ト蓋シ今設シ一家五人ノ家眷ヲ養フニ其麺包
用類ヲ要スルノ幾何ナルヲ推ス時ハ此言固ヨ
リ過大実ヲ失フ者ト為サヽルヲ得ス
数年前ニ至ル迄山林ヨリ産スル薪料ハ之ヲ筏
トシ水ニ泛フルヿ能ハサルヲ以テ僅カニ数里
外ヲ除クノ外之ヲ運輸スルヿ能ハス是ヨリシ
テ森林稠密ノ地ニ在テハ人烟殊ニ疎薄ナルヲ
以テ樹木材料共ニ一ント價ヲ賤イサルニ至リ

当時巴華里（バワリヤ）ニ於テ材木ノ賣買ノ價金ハ一「クラフテル」（一「クラフテル」ハ我百匁ニ就キ二尺三寸六分ハ厘立方ニ換ル）ハ就キ二十錢乃至二十五錢許ノ割合ヲ以テシ巴敦（パトン）ノ黒山耶ニ於テハ同量ニ就キ四十錢乃至八十錢ノ割合ヲ以テセリ但シ是レ皆ナ林中ニ在テ未タ他ニ運輸セサル樹木ニ限レリ然ルニ近来道路更ニ開ケ所々ニ鐵道ノ設等陸続起ルニ追ヒシヨリ遂ニ更ニ隔遠ノ地ニ材木ヲ運輸スルノ便ヲ生シ隨テ以テ上文ノ如キ賤價モ日ヲ追ヒ月ヲ累子テ次第ニ騰貴スルニ至レリ而シテ其運輸スル距離ノ遠近ニ從ヒ材木ノ價立ニ差等ヲ生スルノ此例ヲ見ントスルハ須ラク森林多キ國ニ就キ其溪谷平地及ヒ都會ノ地ニ於テ價金ヲ互ニ比較スル可シ即チ直チニ之ヲ明ニスルヲ得可シ左ニ掲クル所ハ巴敦ノ統計表中ニ記載スル者ニシテ其價金ハ材木重サ一「クラフテル」ニ就テ算スル者ト知ル可シ

ムルグ河谷ノ部本文フォルバックハ河上ノ地ニシテ即チ山林ニ近シ以下カルスルイニ至ル迄地位順ヲ追フ河下ニ赴ク

フォルバック

金貳圓四十〻錢

ゼルンスバック　金二圓八十
ラスタット　金五圓六錢
カルスルイ　金五圓四十六錢
ナッカル河谷ノ部仝上
イベルバック　金四圓六錢
ウヰッセンバック　金四圓七十三錢
ゼーゲルハンセン　金四圓八十錢
ヘーデルベルグ　金五圓二十錢
マヌビーム　金六圓

右ノ價金中材木ノ伐倒整備ノ費用ハ一クラフテル」ニ就キ四十錢乃至六十錢ニ過キスシテ其餘ニ出ツル價額ハ距離ノ減スル毎ニ亦其動ヲ生ス可シ如何ントナレハ距離即チ運輸費用愈減少スレハ亦隨テ其山林ニ於ル樹木ノ價直愈騰貴シ都會其他之ヲ消費スルノ地ニ於ル價金亦愈低下スルノ理ナレハナリ故ニ大都會其他樹林ニ乏シキ地ニ在テ常ニ材木ノ價金甚タ貴キハ即チ此運輸費用ノ容易ナラサルニ基ツク者ニシテ要スルニ其費用甚タ多キトキハ亦隨テ其運輸ヲ罷止セラルヘキヲ待ス此ノ如キ虽モ甚タ有

價ナル材木及ビ其他燃温力多キ材木ハ独リ尚
遠地ヨリ之ヲ運輸ス可シ蓋シ此ニ当レハ薪
料ノ材木ト雖モ尚或ハ車機ヲ製スルニ之ヲ用
ヒ或ハ小臺時計汲桶等ノ如キ小ナル木器ヲ作
ルニ之ヲ用フ可シ
爰ニ又林業ト農業トノ區別ヲシテ更ニ明晰ナ
ラシムル所以ノ一事ヲ見ル可シ抑農業ニ在テ
ハ其産物十分成熟ノ時到ルニ非サレハ之ヲ用
フルニ益ナキカ故ニ該業ニ在テ殊ニ慮ル可
キ錯失ト称スル者唯其肥料ヲ加ヘスシテ西地

ヲ瘦衰ニ陷ラシムルノ時ニ外ナラスシテ是亦
再ヒ多量ノ肥料ヲ用ヒテ之ヲ培養スル時ハ其
回復何ノ難キヿカアラン然ト雖モ独リ林業ノ
如キハ特ニ天然ノ地質ヲ假用スルニ過キサル
カ故ニ其伐木ノ為メニ定極セル至当ノ年限ヲ
守ルニ際シ若シ或ハ時ノ到ルヲ俟タスシテ往
ラニ之ヲ伐倒スル時ハ其有害無量ナル僅ニ農
業上ノ錯失ノ如キニアラスシテ就中新料ニ供
ス可キ材木ヲ伐倒スルノ弊最モ甚タシトス而
シテ其伐木年限ニ全ク達セスシテ之ヲ伐倒スル

ノ有害ナルハ他ニシ此等ノ錯行アリシ時ハ山林
ノ業ハ一時全ク之カ為メニ廃滅シ今ヨリシテ
新ニ其業ヲ起サヽルヲ得サレハナリ加之此等
錯行ヲ以テ当期収ムル産物ノ如キ其頃数全ク
年限ノ畢ルノ後ニ納ムルノ高ニ迫ハサル実ニ
霄壌タル可シ如何ントナレハ我カ欧洲森林樹
木ノ繁衍実ニ驚ク可キ者ニシテ年々森林ノ別
田ニ更ニ一園ノ生殖ヲ為スヲ以テ之ヲ見ル時
ハ一木ト雖モ亦年々其周囲ニ圏状ノ生殖ヲ為
サヽルナシ然レ、則チ今十年間立ツ所ノ樹木
二本ヲ以テ之ヲ二十年間立ツ所ノ樹木一木ニ
比較スルモ其森林ヲ為スノ大ナ遠ク一木ニ迫
フ能ハサルヿ必然タレバナリ
凡ソ農業ノ廣狹及ヒ其製法ハ各國常ニ人口ノ
多寡生計ノ善悪及ヒ其開化進歩ノ情況ニ従テ
自ラ殊異スルヿナルカ林業ニ於テモ亦同ク然
リト為ス如何トナレハ今夫レ人民ノ情況愈低
キニ居レハ其山林ノ管理上ニ於テモ亦愈無心
ニシテ毫モ冗費ニ念ヲ用ヒス到ル其懶惰無為
無学文盲放逸奢侈ナルヨリ幾ク材料ヲ無益

ニ費スヲ知ラサルハナリ蓋シ見ハ此等人烟未
タ稠密ナラサルカ故ニ森林ノ廣尚甚タ大ニ
シテ毎ニ求需ノ餘ニ繁生スル者其数頗ル多シ
是ヲ以テ聊カ上文ノ如キ一アルモ格別其害
ヲ醸スヿナシ故ニ樹木ヲ中途ヨリ伐倒シ斷林
ヲ棄テ腐朽ニ附シ板等ヲ整フルニ見タヾ費多
キヿヲ用ヒ材木ヲ以テ著ノ家屋ヲ作リ無益ノ
薪ヲ費シ毫モ材木ノ節倹方ニ注意セサルカ如
キ諸種件々モ尚以テ許ス可シト為スナリ如何
トナレハ仮令此等ノ如キヿアルモ曽テ供給ノ
減少スル恵ヘナリ何如ニ節倹ヲ為スモ却テ
益ナキヲ以テナリ然ト虽モ林業更ニ開進シ人
烟更ニ稠密ナルニ至レハ其材木ノ價金モ亦必
ス少クモ其稠密ナル部落ニ於テ騰昂シ隨テ素
人亦自ラ節倹ノ方ヲ守リ更ニ愛惜シテ之ヲ用
ヒサル可ラサルニ至ル可シ然ルニ某ノ國ニ在
テハ其經済ノ自然ニ基キ其冗費ノ尚久シク免
ル可ラサル者アリ例ヘハ農民等ノ不法ナル竈
ヲ設ケ或ハ板葺屋ヲ造リテ材木ノ無益ニ費ス
カ如キノ類是ナリ蓋シ此等ノ地方ニ在テハ古

價金ノ騰昂甚タ世間ノ平安上ニ益アリト謂フ
可シ抜スルニ材木ノ價金騰昂スルハ則チ自ラ
憂自ラ戒ム可キヲ以テナリ 現今数年ノ國々既ニ火難等ノ
ノ制度ヲ以テ彼ノ板葺屋背及ヒ木角屋大ナル角木
恰モ煉瓦ノ如ク疊累シテ建タル家屋ヲ去フノ如キ有害ナル建築方ヲ
廃却セリ然レハ則チ管林上ノ美功ハ唯ノ聰明
ナル整備辨法ニ顕ハル、者ニシテ就中其二三
ヲ掲クルニ凡ソ著ノ事物ヲ為スニ各其合当ナ
ル木種ヲ選テ之ヲ用ヒ又材木ノ冗費ヲ減シテ
更ニ有益ニ之ヲ用ヒ又其用ヒタル材木ヲ更ニ
善ク保存シ又其材木ノ地中ニ穿入スル部分ヲ
火ヲ以テ焦シ或ハ油顔料（アブラエノグ）ヲ以テ之ヲ塗リ又欄
干、船舶、橋梁等ノ如ク從前木ヲ用ヒタル事物ヲ
鉄或ハ其他ノ物料ニ換フル等ハ即チ其整備辨
法ノ宜シキヲ得ル者ト謂フ可シ現今改羅巴ニ
於テ材木ノ價金ハ專ラ其代用ノ有無ニ基ツク
者ニシテ今此林產ノ総計五分一若クハ六分一
ハ之ヲ家屋、器具ノ為メニ用フルトノ計算アリ
此ト虽モ局所ノ氣候ト建築法ニ從ヒ亦自ラ此
比例ヲ異ニスルヿアル可シ抑日耳曼ニ於テ年

マ一「モルゲン」我一反七畝二十一歩ニ換ル林地ヨリ生スル産物ノ中数ハ大凡三十六「ヘクトー」立方ナリト云フ乃チ是ニ由テ之ヲ観レハ廣サ一「モルゲン」ノ林地ハ特ニ一人ノ要用ニ充ツル者ニシテ今、方一里日耳曼ノ地ニ居住スル人口中数四千ロナリトスル時ハ日耳曼國ノ全境十四分三一ハ必ス森林ヲ以テ之ヲ益フノ理ニシテ是即チ日耳曼國ニ特別ナル所ナリ故ニ其材木專ラ内國ノ用ニ充ツルノ餘、許多亦外國ニ輸出スルニ至ル益シ左ニ掲クル所ハ一般ノ算計ニ基ツク者ニシテ即チ諸國森林ヲ以テ益フノ地位廣狹ヲ知ルニ足ル可シ

全地ノ百分数　林地ヲ人口ニ分頭シタル「モルゲン」数

墺地利	三〇、四八	四八、再分ノ数以下之倣	二、〇八
普魯西	二二、七三		一、四〇
巴華里（バワリヤ）	三〇、一四		一、九五
威丁堡（ヴテンベルク）	三一、〇二		一、〇八
巴敦（バトン）	三二、二〇		一、四六
黒西馬因（ヘッセン ダルムスタット）	三三、〇五		一、二七

堀尔黑西	四〇〇四	一、九九	
撒遜	三〇五五	〇、九六	
漢耶耳	一三、八八	一、一三	
黑林堡	一一、八〇	一、〇八	
大英國及愛尔蘭	五		
仏蘭西	一六、七九	〇、七九	
同國又一説	一三、四六	〇、七六	
欧羅巴	魯西亜	三〇、九〇	一一〇二
瑞典	六〇、	二二、〇四	
諾威	六六、	六三、四〇	
丁抹	五、五〇	〇、五七	
瑞士	一五、	一、〇三	
荷蘭	七、一〇	〇、三一	
白耳義	一八、五二	〇、四八	
是班牙	五、五二	〇、七二	
葡萄牙	、四、四〇	〇、四七	
撒地尼	一、二、二九	〇、七三	
拿破利	九、四三	〇、三七	

凡ソ地球ノ石炭鑛鋏ノ包藏スル其富額実ニ愕然タル者ニシテ其常ニ材木ノ用ニ代フル者其数勝テ算フ可ラスト雖モ今又此ニ幾許ノ所用加ハルモ百歳供給ノ缺乏スル秋無カル可シ就中其石炭ノ如キ已ニ此処ニ乏シケレハ又彼処ヲ発明シ其掘穿ノ業ヲ漸地ニ及ホシ永ク世間ノ繁用ニ充備スル亦疑ヲ容ルヽニ所ナシト雖モ然レ𪜈此等ノ本源ト雖モ亦敢テ衰滅ノ期無キヲ得スシテ其時限ヲ指定スル如キ固ヨリ難ラスト為ス是ヲ以テ一國經済ノ職分ヲ全ウセンニハ宜シク自殖天産ノ富源タル山林經済ノ道ヲ勉メ遠ク將来ノ不足ニ備ヘサル可ラス

是故ニ一國政府ハ森林ノ管理伐収上ニ関スル諸ノ制ヲ査究シ各森林ヲシテ適宜ノ地位ニ帰セシメンコトヲ勉メ又伐木時限ニ配慮シテ彼ノ一旦ノ小利ニ眩ヽ將来ノ大利ヲ失フカ如キノ挙動ナカラシムルヲ以テ最モ緊要ノ戒分ト為スナリ

茲ニ森林ヲ管理シ且ツ之ヲ伐収スルノ方制ヲ

分ツテ二種トス即チ全林制ト林區制ト是ナリ
然ルニ又樹林藝ト称スル一種ノ方制アリト雖
モ此制ハ常ニ唯某種ノ地位ヲ限リテ行フ可キ
者タルカ故ニ一般之ヲ度外ノ制ト為スノミナ
ラス僅カニ花園若クハ焜室中ニ於ル数植ノ生
殖方ト共ニ比論ス可キニ過キサルカ故ニ此ニ
姑ク之ヲ贅セス抑全林制ハ稍往昔ノ所用ニ係
ル者ニシテ既ニ一千七百年代ニ至ル迄ハ世專
ラ此方制ヲ用ヒタリ蓋シ当時ハ人烟未タ疎薄
ニシテ森林甚タ繁茂シ殊ニ運輸ノ方甚タ不便
ナリシヨリ其生産スル所年々使禁スル所ニ甚
タ超越シ更ニ節儉ヲ為スニ要ナカリシヲ以テ
ナリ此方制ニ於テハ各森林ノ區ヲ分チ年回ノ
順次ニ從テ之ヲ伐収スルヿヲ為サス常ニ伐業
ヲ一森林ノ全部ニ及ホシテ唯其古キ大木自他
風雨降雪ヲ遮ルニ要用ナル樹木ヲ残留シ然カ
ニ稚芽ノ保護ト為スノ外其成生繁殖ノ道ニ至
テハ総テ之ヲ天然ニ任シ毫モ人為ノ栽植ヲ須
フルナシ曰テ当時此項ニ就テハ別ニ費用ヲ起
サヾリシト雖モ亦他項ニ就テ甚タ大ナ

ル損亡冗費ヲ醸マニ至レリ即チ此制ニ従ヒ林
木ハ都テ諸部同時ニ之ヲ伐倒セシニ因リ其夥
数ノ労者ヲ監督スルヿ能ハス故ニ労者半其残
留スヿ可キ樹木ヲ伐倒シテ其伐倒ス可キ樹木モ
距離隔レハ溢リニ之ヲ残留シ且ツ徒ラニ之ヲ
棄テ腐朽ニ帰セシムル等其弊勝テ言フ可ラス
加之林中通路ノ便ヲ謀リ伐路ヲ定メテ之ヲ切
開セサルヨリ遂ニ材木ヲ運搬スルニ当リ幾多
ノ稚芽ヲ損壊スルヲ知ラス殊ニ森林ノ価直及
ヒ此ヨリ伐出ス可キ材木ノ価直ヲ算定スル如
キ固ヨリ正確ノ法ニ基ツクヿ能ハサリキ又此
制ニ於テハ往々時日ヲ消スルヿ甚タ大ナルノ
ミナラス其一期許ヿノ伐倒ニ因リ将来ヿ年森
林ノ生産ヲ害スルノ不益ニ至テハ実ニ最モ甚
シト謂フ可シ殊ニ森林ノ諸部稚芽ノ充満スル
ニ際シ之ヲ囲閉スルヿナキヨリ往々其家畜ノ
為メニ踏倒壊毀セラル、者数ヲ知ラス是ヲ以
テ此方制ヲ用フルハ唯森林ノ廣サ極テ大ニ
シテ斯ル損失ノ毫モ心頭ニ到ラサルノ間ニ限
ル者トスノ蓋シ寒暑酷烈ニシテ往々暴風大雪ノ

災アル國ニ於テハ反テ此制ヲ用ヒテ大ニ益ヲ
得ルヿ有ル可シ何トナレハ斯ノ如キノ地ニ在
テハ彼ノ林區制ヲ用ヒテ一區ノ林木ノ一時ニ
拂滅スル時ハ其暴風粗天ノ保護ヲ失ヒ稚芽全
ク其成長ヲ保ツヿ能ハスシテ茲區ノ地位遂ニ
沙漠ト異ラサルニ至ル可ケレハナリ
蓋シ此制ヨリシテ又第二ノ制即チ林區制ニ進
ミシハ甚タ急速ノヿニアラスシテ今其既往ヲ
証セン二第十四回世紀千三百年代ヲ去フニ当リ此制ハ
耳曼ニ於テ僅カニ少シク行ハレシカ第十五回
世紀ニ至テ始メテ仏蘭西及ヒ日耳曼全國ニ傳
播シ既ニシテ都鄙ノ社會右クハ政府ニ於テ一
大森林ヲ有セル地方ニ於テハ漸々彼ノ森林ノ
全部ヲ伐倒スルノ不益ナルヲ知リ宜シク年回
ヲ定メ順次ニ從テ林中各一部ノ樹木ヲ伐收ス
可キヲ決スルニ至リ隨テ皆ナ其年回ノ至ルヲ
俟テ此部ヨリ彼部ニ遷リ其間他ノ部ハ全ク回
繞閉塞シテ伐木ヲ停止セリ蓋シ此制ノ便益ト
スル所ニアリ第一ニハ斯ノ如クナラシムル時
ハ労者等更ニ密接シテ労動ヲ為スカ故ニ之ヲ

監スル更ニ容易ナルニ基ツク者ナリ加之此制
ニ於テハ専ラ伐路ノ便ヲ謀リ一旦伐収車ノ経
過セシ地位ニ再ヒ往還スルヿナカラシメ目テ
以テ其繞ニ植栽シタル稚芽ヲシテ中途ニ踏倒
スルノ虞ナク十分其成長ノ時ヲ得セシムルヲ
主旨トセシヨリ其森林再殖ノ期ニ臨ミ更ニ豊
饒ヲ以前ニ加フル者実ニ萬々ナリシト云フ目
テ彼ノ古制ハ遂ニ廃却ニ帰シタリ蓋シ新古両
制ノ理非懸隔スル者見ル可キナリ是ヨリシテ
現今森林皆ナ林區ト称スル者ニ之ヲ分チ其各
區ヲシテ同年代ノ樹木若干量ヲ包含セシメ常
ニ年回ヲ定メテ順次ニ此彼ニ轉伐シ其伐木セ
ル地位ニハ亦新タニ稚芽ヲ植栽シ再ヒ伐倒時
限ノ到ル迄之ヲ囲繞閉塞シテ人手ヲ觸ルヽヿ
ナシ斯ノ如クナレハ則チ各區樹木ノ年代ヲ見
テ直チニ其伐倒年回ノ来ルヲ知リ且同期ニ伐
収ス可キ材木ノ量ヲ算定スルニ易カル可シ然
シテ其伐木セル部分ノ如キハ啻ニ新タニ種苗
ヲ施スノミナラス断株ヲ残スニ再ヒ萠芽ヲ生
スルカ如クナラシメ且ツ豫メ各年同量ノ樹木

ヲ代収スルノ便ノ謀リテ種芽ヲ植栽ス又此制
ヲ便益トスル第二ノ旨趣ハ宜シク下条ヲ見テ
之ヲ知ル可シ抑此制ニ属スル森林再殖ノ業ハ
今回ヨリ偶然ノ功ヲ俟ツニ非スシテ従来既ニ
実験ヲ以テ証スル所ニ係ルカ故ニ諸事皆ナ最
モ有功ナル先例ニ従テ之ヲ行フヲ得ルノミナ
ラス漸次森林ノ業ニ敷達ナル者陸続トシテ起
ルニ迨ヒシヨリ遂ニ其業ヲシテ更ニ正規ニ基
アシメ更ニ明智ノ法ニ則ラシムルニ至リ今ヲ
距レ五十年前以来山林ノ業遂ニ一学科ノ位置
ヲ有リ其起企目的ヲ行フニ専ラ博物及ヒ化学
上ノ新発明ヲ取用シ大ニ其盛ヲ致スニ至レリ
実ニ此制ハ便益推シテ知ルヘキノミ
上文ニ所謂樹林芸ハ元ト山林経済学ノ一派ニ
属ル者ト雖モ今一国ノ経済上ヨリ精細ニ之ヲ
論究スル時ハ敢テ此学ノ管スル者ト為ス可ラ
ス何トナレハ山林経済学ハ固ヨリ千種萬類ノ
樹木ヲ一括シタル生産論ニ特関スル者ナレ
彼ノ樹林芸ノ如キハ諸ノ園芸ナ一般唯一樹一
木ノ生産ニ力ヲ用ヒ注意経営以テ之ヲ培養ス

ルニ出テサレハ少リ故ニ真正森林ニ関スル事故ナキ上ハ畢ニ樹藝ト称スルヲ至当トセン

殊ニ一樹一木ノ培養ハ専ラ霜霰砂風等ノ如キ害物ニ中ラサルノ地位ヲ必要トスルカ故ニ常ニ草野田園ニ側面シ若クハ牧羊地ヲ囲繞スル

ノ地位ニ於テ之ヲ帯形ニ植栽スルヲ以テ最成長ニ益アリトス実ニ右諸害ヲ避クルニハ此等郊原ニ連ナルノ地位ニ優ル者ナク加之其地

以人家ヲ離ル、甚タ遠ケレハ往々悪漢等ノ為メ植栽シタル樹木ヲ盗取セラル、ノ憂ヲ免

レサルカ故ニ是レ固ヨリ敢テ山林ニ特関スル

ノ業ト為ス可ラス其他諸ノ情況ヲ以テ之ヲ推

スニ樹林藝ハ唯山林学中ノ外観ニ察ス可キ

モノニシテ苟モ本則ニ係レル者ト為ス可キニ

非ス

森林ハ常ニ種類甚タ夥シト雖モ其伐倒時限ノ

長短ニ従テ之ヲ数別スルニ至リシハ唯彼ノ林

區制以来ノ一ニシテ今其區別ヲ現今ニ徴スル

ニ即チ高林中林低林ノ三者トス蓋シ其中林ト

ハ所謂高林ト低林トヲ相共ニ合同スル者シ

テ其制先ツ美木数本ヲ選テ之ニ置キ以テ示ク
成長ノ時ヲ待セシメ自餘ノ樹木ハ皆ナ低木ニ
シテ之ヲ伐収スルノ森林ヲ云フ又高林ノ其
樹木十分ノ成長ヲ待其丈尺全ク長スルニ至ル
迄曾テ之ヲ伐収スルナキノ森林ヲ云フ故ニ高
林ノ伐期ハ最モ久遠ナル者ニシテ其樹木特ニ
強大ナルヲ常トス又之ニ反シテ低林ハ伐期甚
タ短縮ニシテ其樹木未タ十分ノ大ヲ得サル
前既ニ之ヲ伐倒シ再ヒ新芽ノ生スルヲ俟ツノ
期レテ其稚樹ノ長スル如キハ実ニ甚タ神速

ナル者ト雖モ其材木ノ量ヲ増加スルハ亦甚タ
少キ者トス然ルニ高林ニ於テハ常ニ若干ノ年
限ニ達スルノ間ハ増其材木ノ量ノ増加スルノ
ミナラス其額外ノ諸産果実等ノ如キ者ヲ云フト雖モ亦大
ニ其量ヲ増成ス是ニ於テカ高林ノ妻産ナル者
見ル可キナリ然シテ今伐期ヲ三十年ト定メタ
ル低林ノ如キハ仮令其伐期到ルト雖モ樹木尚
稚少ニシテ唯其寸尺ノミヲ長シテ未ダ枝葉ノ
繁茂ニ暇アラサレカ故ニ其伐倒シテ結果ヲ観
ル亦甚タトナルノミ之ニ反シテ伐期ヲ百二十

年ト定メタル高林ノ如キハ者樹木皆ナ殊ニ十分ノ成長ヲ得其産ノ材木甚タ饒多ニシテ今之ヲ低林ニ比スル片ハ其伐倒ノ結果ニ親ルヿ更ニ四倍ノ餘ニ居ル可シ他ナシ低林ノ樹木ハ常ニ高林ノ樹木四分一ノ價直ニ達スルヿナケレバナリ加フルニ高林ノ利用ハ亦低林ニ優レヿ甚タ大ニシテ兩林ニ於ル落葉ノ如キ其量常ニ相同シト雖モ低林ニ在テハ措テ肥料ニ充テサルヲ得ス高林ニ在テハ敢テ毀スルヲ要セス常ニ其若干分ヲ搬去シテ他ノ利用ニ供スルヲ得又低林ニ於テハ常ニ家畜ノ乱入跳踏ヲ禦ク為メ高林ヨリ更ニ四倍ノ労費ヲ用ヒテ之ヲ閉塞スルニ注意セサルヲ得スト雖モ高林ニ於テハ其樹木既ニ成長強大ナルヲ以テ敢テ斯ノ如クスルヲ要セス又松脂樟脳等ノ如キ者物ヲ收獲スルハ殊ニ古キ森林ニ限ル者トス加之低林ニ於テハ曾テ強大ナル家屋ノ建築ニ用フ可キ材木一モ生セサルカ故ニ國ニ日テハ此等建築ノ用ヲ充ツルニ平常中林ヲ以テスルアリ蓋シ中林ハ此等ノ材木ニ充分ナルノミナラス亦其

薪料ニ供ス可キ小材多クシテ一タヒ之ヲ伐収スルモ幾日ニシテ又速ニ其位ヲ補フノ材料ヲ生スルヲ以テナリ

凡ソ樹木ノ十分成長スルハ各國其土地氣候ノ自然ニ從テ自ラ異同アリト雖モ要スルニ軟樹松樹杉樹ノハ太約三十年乃至八十年間ニシテ成長シ堅木樫樹栗樹ノ如キヲ云フハ七十年乃至百二十年間ニシテ成長ヲ得ル者トス然ル高林ニ於テハ植栽監督等ノ費用低林ヨリ更ニ大ナルカ故ニ其所有主タル者必ス一大資本ヲ之ニ加ヘ永時其利ヲ待セサル可カラス而シテ其功一タヒ挙カレハ其結果ハ啻ニ資本ノ利息ヲ償フニ足ルノミナラス尓後費セル複利ニ至ル迄之ヲ償フニ餘アル可シ蓋シ願フニ其森林ニ放ク所ノ資本ヲシテ貨幣ノ仮ニテ存セシメ之ヲ他人ニ貸ス時ハ其森林ニ放埋スルヨリ更ニ幾許ノ高ヲ増加スル丁必然ニシテ今茲ニ山林經済学上ノ計算ニ就テ之ヲ見ルニ凡ソ堅木ノ林ニ在テハ年々資本價ノ増加スル者二分一ハ至ラスシテ一分六八ノ割合ナリトス然ルニ此計算甚タ事

実ヲ低ウスル者ノ如シ如何トナレハ森林ヨリ
収獲スル額外ノ利分ヲ計算スル時ハ年々一分
以上一分、三二ノ割合ニシテ即チ之ヲ合スル時
ハ殆ント三分ニ換レルヲ以テナリ蓋シ此三分
ノ増價ト雖モ世間一般ノ賣買ニ関スル利息高
ニ比スレハ固ヨリ以テ低利ト為サヽルヲ得ス
然ト雖モ森林ノ伐期愈永ケレハ其價直愈増成
シ其収獲ス可キ生産ノ量モ亦愈不撓ノ情勢ヲ
得ルモノトス故ニ低林ノ如キ其伐期甚タ縮短
ナルヲ以テ必ス其結果ノ確実ナルヲ得可ラサ
サルヿ瞭々タリ是ニ由テ之ヲ観レハ政府若ク
ハ社會等ノ如キ永久ノ所有主ニ在テハ宜シク
伐期ノ長キヲ取テ之ヲ管スル適宜ト為ス可
シ抑材木ニ代フ可キ物品鉄石炭等愈廉價トナ
レハ建家材木ノ價直亦愈大ナルニ至ル者ヽ如
何トナレハ低林ノ平木ハ常ニ他物ヲ以テ之ニ
代フルヿ甚タ易シト雖モ其美木ノ如キ特ニ一
百餘年ヲ經ルニ非ラサレハ天然其用ヲ為サヽ
ルカ如キ者ナレハ容易ニ他物ヲ以テ之カ代用
ト為スヿ能ハサルヲ以テナリ

拠廣大ナル森林ハ経済上最モ便益ナル所有物
トス而シテ今仮令一大森林ヲ所有スルモ別ニ
至大ノ煩悶アルニ非スシテ唯其煩ト為ス者單
ニ数名ノ管林吏ヲ置キ之ニ労動者適宜ヲ附シ
テ之ヲ備ヘ且ツ其森林ヲ適宜ノ區数ニ分割シ
テ時々定マリテ此ヨリ彼ニ轉伐スルノ便ノ設
ケ譬ヘハ一森林ノ伐期ヲ一百二十年トスレハ
其森林ヲ同数ニ區分シ年々定マリテ其一區
ツヽヲ伐収スルカ如キノ以テ永久其所得ヲ保
類又更ニ小別スルノ類ヲ去フ
有シ且ツ之ヲ収納スルノ費用ニ供スルヲ如キ
ニ外ナラス而シテ森林小ナレハ功ヲ尋年ニ待
テ偶一期ノ伐収ヲ得ルニ過キスト雖モ右ニ言
フカ如キ一大森林ニ於テハ區ヲ年々若クハ数
月ニ適分シテ其伐収ヲ展ニスルヲ得可シ是ヲ
以テ森林ハ常ニ政府社會若クハ一大地主ノ手
ニ有セサル可ラサル者トス又一家永世賣去ス
可ラサル所有物ヲ好ム者ノ須ク有ス可キ者ト
為スナリ何トナレハ森林ノ價直ハ其包含スル
樹木ニ在ルヲ以テ所有主若シ其樹木ヲ伐ル時
ハ全ク其價直ヲ存セサルニ至ル可キカ故ニ或
ハ一時ノ急迫等ニ由リ之ヲ抵当トシテ貨幣ヲ

借用セントスルモ固ヨリ人ノ受容ヲ得ル能ハ
サルヲ以テナリ又森林例ヘハ一村内ノ共有タ
ルニ当リ之ヲ村人中ニ分配スルヲ甚タ不益ト
ス然ル所以ヲ尋ヌルニ其森林苟モ分配スルヿ
ナケレハ永世一村ニ於ル不滅ノ財源タルヲ得
可キニ今若シ斯ル愚處置ヲ為ス時ハ森林忽チ
地ヲ変ヘテ他ノ所有主ニ帰シ漸次傍側ヨリ伐
倒シテ竟ニ全ク潰滅ス可キヲ以テナリ又森林
ハ天然人ニ賃貸ス可ラサル情況ヲ存スル者ニ
シテ所有主若シ之ヲ賃貸スルモ聊カ其益ヲ見
ルナカル可シ何トナレハ借主タル者適宜ニ之
ヲ監スルニ恰モ已レ始テ之ヲ開クカ如キノ費
用アリテ常ニ十分ノ賃料ヲ所有主ニ與フル能
ハサルヲ以テナリ

各國政府山林管轄ノ由来

凡ソ一國ノ森林皆ナ其起原ヲ天然ニ求メ未タ
嘗テ人力ノ此ニ及ホス無ク其全境至大ノ地位
ヲ占シテ人容易ノ内部ニ入ルヲ得ス其土地殊
ニ泥沼多ク シテ往々樹木ノ顛覆シテ腐朽ニ帰
スル者アルモ棄テ問ハサルカ如キノ情況ヲ存

スルノ間ハ政府タル者須ク此ニ心慮ヲ投シテ
其森林ニカヲ用ヒ専ラ其気光ハ流通ヲ善クシ
漸々以テ内地ニ入ルノ便ヲ開カサル可ラス斯
ノ如キハ殊ニ畳重連接セル高山ヲ鎖スノ黒林
深森ニ就テ云フ者ニシテ此等ノ深山ニ在テ専
ラ開拓ノ業ヲ起スハ先ツ其溪谷ノ樹木ヲ伐倒
シテ所謂林村ヲ所々ニ開設スルヲ業基トス既
ニシテ四方八面ヨリ其深林ニ穿チ入リ或ハ木
ヲ伐リテ炭ヲ焼キ或ハ其溪間ヲ下タリ村木
ヲ河下ノ地位ニ運輸シ是時ニ当レハ又適宜ノ
地位ニ在テハ丘陵ヨリ下ニ箒著若クハ溜池（材木ヲ流シ下ス）
ヲ山ヨリ卸スニ備フルモノニテ其法溜池一
端ニ水門ヲ鎖シ其外部山面ニ縱行シテ麓溪間
ニ至ル迄溝渠ヲ造ル即チ其池水ニ伐倒シタル
材木ヲ投シ適宜ノ時ヲ計リテ其水門ヲ開ケハ
其材木池水ト共ニ沛然トシテ溝渠ニ流出シ勢
ヒ衆シテ皆其溪間ニ墜落ス此法極メテ人力ヲ
省キ甚タ便ナルヲ以テ用フ之ヲ設ケ又村木ヲ泛ヘ溪
西洋山国皆専ラ之ヲ用フ
川ヲ下タル可キノ具筏ノ如キヲ造リテ其服運
ノ便ニ供ス可シ乃チ者ヲ云フ斯ノ如クニシテ其森林稍
所其ヲ生スルニ至レハ隨テ亦其泥沼ヲ乾シ森
林ヲ切開シ此ニ至テ始メテ其成長ハ道ヲ開進
スルヲ得可シ蓋シ是際ニ当リ其林地ノ中若シ

耕地若クハ牧地ニ適合ナル者アレハ其樹木ノ
盡ク焼燼若クハ伐開シテ之ヲ平野ニ運出シ其
ニ新タニ村落ヲ設ケテ農民若クハ牧民ヲ遷移
シ以テ専ラ其業ヲ開カシム可シ
往昔日耳曼ニ於テ往々森林ニ神霊ヲ祭リ之ヲ
拝念セシヲ以テ之ヲ見レハ森林ハ本ト邦土部
落ノ共有タリシ丁瞭然ニシテ爾後幾年ノ間常
ニ此等ノ森林ヲ共用スルヿナリシカ以来人口
漸ク増加シ材木稍乏キニ至リシヨリ遂ニ其共
用ノ法亦大ニ面目ヲ改メ邦土部落ノ人民常ニ
唯其顛覆シタル樹木ノ枝片ヲ拾取スルヲ得シ
ノミニテ其堅木ノ如キハ唯該部落ノ特許ニ因
リ専カニ家屋建築等ノ為メニ伐収スルノ外都
テ一箇ノ私用ニ供スルヲ禁セラレ既ニ近来ニ
至テモ此ノ権還タ又変シテ終ニ此等樹木ハ唯
該部落ニテ之ヲ伐リ以テ其人民中ニ分配スル
ノ事ト為リタリ之ニ反シテ最モ好良ナル森林
ハ所ニ田猟等ノ為メ漸々政府僧官貴族等ノ領
マル所ノ為リ斯ノ如クニシテ森林ハ漸次公匿
ヲ設ケテ之ヲ閉塞スルニ至リ是時ヨリ以来政

府於テ諸ノ森林ニ督理スルノ権利日一日ヨ
リモ増進シ遂ニ現今世ニ森林又最上権ト称シ
通知スル勿ニ正ニ属スル処置ヲ取ルニ迫ヘ
リ是ニ於テ政府ハ此名義ヲ以テ直チニ自ラ森
林最上ノ所有権ヲ執リシカ尚其部落ノ人民ニハ
尽ク従前ノ如ク森林ノ所産ヲ受クルノ権ヲ許
セリ即チ此権利ヲ名ケテ官林ニ臣タルノ権ト
称セリ蓋シ此等人民モ其得ル所毫モ以前ニ異
ナラサルノミナラス此森林ノ最上権ノ如キ仮
令正路上ヨリ論シテ不正ト為ス可キモ経済上

ヨリ之ヲ見レハ勢必ス森林ノ荒廃壊滅ノ虞ヲ
防クニ益アル丁瞭々タルカ故ニ皆此臣タルノ
位置ヲ以テ却テ満足ノ思ヲ生シ甘シテ政府ノ
管轄下ニ属スルニ至レリ蓋シ此臣権ノ種類甚
タ数様アリテ或ハ時々定マリテ材木ノ一部分
ヲ受クルアリ或ハ自他ノ林産ニ享クルアリ或
ハ此両様ヲ受クルアリシカ又地方ノ風習ニ従
ヒ各此臣権ノ異ニセリ而シテ更ニ目テハ或ハ
唯薪料ノ材木ニ限アリ或ハ営繕ノ材木ニ限
ルアリ或ハ火難ノ後テ家屋ヲ再建スルノ時ニ

限アリ又或ハ其ノ諸産ニ應シ定度ノ分量ヲ受クヘキ地アリ又此等各部落ノ人民常ニ風雪等ノ為メニ折倒シタル砕木及ヒ森林ヲ清潔ニシテ別ニ政府ニ損費ヲ及ボサヽルノ摘物(チギリモノ)木根等ヲ尽ク領収スルヲ得タリ其故ヲ尋スルニ凡ソ山林学ノ整方ニ從ヒ都テ林中光気ノ通路ヲ障遮スル諸物ヲ掃除シ之ヲ清潔ニスルハ政府ノ最モ緊要トセシ所タレハナリ又此等人民ノ最モ便益ヲ得タルハ家畜ヲ森林ニ放スルノ権ニシテ就中樵実雑草等以テ豚ヲ飼養スルヲ専ラトセリ然ルニ曩昔ニ在テハ各種牧草ヲ作ルノ方未タ開ケサリシヲ以テ当時其仮益ノ農夫ニ於ルハ実ニ大ナリシト謂フ可シ加之密蜂ヲ蓄ヘ松脂ヲ取ル等ノ利益モ皆此臣権ニ從属シタリ蓋シ此等ノ権利ハ固ヨリ高林ノミニ特関セシヿ疑ナクシテ彼ノ低林ノ如キニ於テハ之ヲ適用スルモ啻ニ其林ヲ損害スルノミナラス絶ヘテ其所要ヲ充ノルノ生産ナキヲ以テナリ

蓋シ前条ノ事態ニ存セシ、唯農夫ノ権力尚盛

ニテ貴族ハ皆各自ノ領地ニ居住シ農夫ト直
接シテ又ニ貨幣ヘ入ヲ要セサリシ時代ノ間
ニ限リシヿニテ尓後貴族等公廨参勤ノ便ニ基
ツキ各所ニ居住ヲ集ムルニ迫ヘ漸ク放逸ノ生
ヲ導キ花費浪用極メテ少カラサルニ至リショ
リ遂ニ其領地ニ居ルノ家令及ヘ地税吏等専ラ
其領地ヨリ貨幣ヲ搾収センヿヲ謀リ一時ハ又
其林木ヲ極メテ伐収スルヨリ他ニ良策ナキヲ
思ヘ是ヨリシテ往々森林ノ全部ヲ壊滅ニ及ヘ
シヿ少カラス既ニシテ僧官モ亦此王侯貴族ノ

輙ニ倣ヘ専ラ森林ヲ敗壊セシヨリ遠ニ甚タ痛
心ス可キ事情ヲ生スルニ迫ヘリ而シテ此等森
林ヲ敗壊スルカ為メ禍害ヲ全郡部落ニ及ホス
ノ例甚タ多シ即チ左ノ如シ
前条森林ヲ壊滅スルノ弊先ツ気候ヲ変スルノ
一項ヲ以テ最トス抑平地ニ在テハ森林ノ有無
敢テ降雨ノ量ニ感響スルヿナシト雖モ山陵ニ
於テハ然ラス今試ニ不毛ノ山陵ヲ見ヨ其湿気
ヲ導クヿ遠ク森林ニ鍾スノ山陵ニ及フヿ能ハ
ス殊ニ降雨ノ量仮令相同シキモ尚其不毛ノ地

ハ更ニ年間晴雨ノ順当ヲ失ヒ雨湿乾燥共ニ大
ニ耕耘ヲ害スルニ至ル即チ此等ノ地方ニ在テ
ハ水絶エテ樹木ノ吸入スルヤウ木葉ノ擁護ス
ルナク糾草土ノ蒸発ヲ防クナク又木根萌芽ノ
吸集スルナキガ故ニ時々沛然河ヲ決シテ下流
ニ帰シ其間到処ノ田園等ヲ損壊スル必ラス殊
ニ其伐木シタル地位ノ河江ハ水専ラ源泉ニ漲
出シテ一時大雨ノ降ルアレハ後チ必ス大洪水
ノ災ヲ免ルヽ能ハス然レハ又舟行運用便
アルヤト問フニ然ラス却テ常時ハ水ニ乏シク
シテ絶エテ定リタル舟行ノ便ニ供スル能ハス
従来仏蘭西ニ於テ以ソーヌ河ノ漲溢スルハ雨降
九日間ニ及フノ後ニ在リトスルヿナリシカ現
今ヲ以テ之ヲ徴スルニ往々二日或ハ三日間ニ
シテ此漲溢ニ至ル是ヲ以テグレノブルノ河堤
ハ既ニ六十萬フランク一フランクハ我ヲ貫シ十八銭ニ該ル
ヲ漸次其高サヲ増築セリ而シテ此景況翁牙里
ニ於テモ亦往々見ル所ナリ並シ又森林ヲ伐拂
フカ為ニ苟モ気候ノ更ニ温度ヲ増ス者トス可
キニアラス斯ノ如クナル時ハ却テ寒暑急劇

酷烈ト為リ更ニ気候ノ順序ヲ追ハサルニ至
者トス亟ルニ彼ノ樹木ヲ栽スル地ノ如キハ全
ク不毛ト為レ地ヨリハ更ニ寒暑ニ進ムヿ徐
々タル者ニシテ即チ森林ノ功昼間ハ以テ冷シ
夜間ハ以テ温メ春候ハ以テ冷シ秋候ハ以テ温
ムルニ在リ以上謂フ所ハ森林ノ餘炎餘寒ヲ存
シテ一朝一夕ニ寒暑ニ進マサル所
以ヲ明ニス 加之森林ハ殊ニ暴風大雨風霰崩雪霜露
砂風等ヲ防禦シ専ラ人事ノ保護ヲ司ル者タル
ニ古来此等ノ森林ヲ壊滅シテ右諸害ノ又ヲ所
ト為ルノ地方少ナカラス惜マサル可ケンヤ抑

何レノ国ヲ問ハス壊土峻山等ニシテ唯樹林木根
ノ為メニ其豊饒ヲ維持シ一タヽビ之ヲ伐倒シ
ハ直チニ水気ヲ乾発シ全ク荒蕪ト変ス可キ者
及ヽ其高脊ナル山脈ニシテ唯森林ノ成殖ノミ
ニ適当シ更ニ軟植ヲ再生スルニ適セサル者其
類甚タ多シ此等ノ地ニ在テ千百ノ森林
ヲ伐倒壊滅スルハ殊ニ易シト雖モ再ヽ之ヲ植
栽スルハ甚タ難シトス茲ニ是班牙ヲ以テ之ヲ
例スルニ足ル可シ同国嘗テ此轍ヲ踏ミ樹林ヲ
壊滅シテ河水ヲ乾カスニ至リシヿ甚タ多ク彼

ノマンザ子ルス河ノ如キ一時ハマドリッドノ表
ニ至ル迄船ヲ動カスニ便ニシテ当時サラゴッサ
ニ於テハ許多船艦ヲ造リシト云フ然ルニ現今
其河水乾燥シ此等ノ地ニ在テ全ク船艦ヲ用
為サルニ至リシハ蓋シ所謂森林ノ全部ヲ伐
倒シテ之ヲ壊滅スルノ弊害ニ出テサルハナシ
故ニ河邊ノ樹木ヲ伐倒スルハ即チ該河ヲ乾カ
スノ術ト知ル可シ嘗テ子子ジヴェラニ於ル一湖
水ノ記ヲ閲スルニ一時近鄰ノ樹木ヲ伐倒セシ
ヨリ其水準遽カニ下タリシカ其再ビ生殖スル
ニ及テ亦漸ニ其水準ヲ回復スルニ至リシト云
フ既ニフライブユルグノ博物学士ノ公會ニ於テ
モ亦此事況ヲ例シテ云ヘルアリ曰ク黒山耶
日耳曼ノ山地ノ南方部落中現今(彼ノ水源ト為ル可シ)
巨樹草木一モ存スルヲ見サルノ地方ト雖モ今
ヲ距ル数百年前ニ在テハ河水溢々トシテ之ニ
流レ数里ノ間水車ヲ用フルノ便ヲ得シカ宰
其森林ヲ壊滅セシヨリ遂ニ之ヲ乾燥スルニ至
リ其地位全ク荒蕪ト為リテ巨樹草木共ニ再生
ヲ得ル能ハサルニ迄ヘト森林ノ伸成スル

弊害推シテ知ル可キノミ

凡ソ一國政府苟モ其歳入ノ源固ウシ愈之ヲ
増サントト欲セハ宜シク下民ヲシテ賦稅ヲ納ム
ルノカニ富マシメサル可ラス故ニ千七百年代
ニ於テ諸國ノ政府夙ニ專裁ヲ以テ此等弊害ニ
陷ラントスルノ暴業ヲ停止シ以來伐木ノ事ハ
專ラ監督樣ノ制ヲ以テ之ヲ抑制セリ蓋シ初ニ
於テ此監督ヲ及ホセシハ唯直接間接ヲ問ハス
畢竟其所領ノ如ク管下ニ從屬スル森林ノミ
限リシニテ自他ノ森林ニ就テハ唯法律布令
ヲ以テ其拂滅損壞等ノ暴業ヲ禁止スルニ過キ
サリシカ尓後漸ヲ追テ其監督抑制ヲ一人一社
ノ所有セル森林ニ及ホスニ至リ時トシテハ又
其所有主等官林ノ管轄方ヲ見テ其更ニ宜ヲ得
ルヲ知リ自ラ政府ノ管林局ニ到リテ專ラ其扶
助監督ヲ嘆願スルニ至レリ而シテ是除政府ノ
之ニ関渉セルモ敢テ他ノ諸務ノ如ク官員迄全
ノ暴威ヲ見ルナク全ク世ノ管林者ト異ナラス
シテ其管林官ハ專ラ以前田猟ノ職ニ在リシ者
ヲ以テ之ニ任シ別ニ歳費ナル司局ヲ置カス此

等管林官ハ唯其山林ノ内外近鄰ニ居住シテ直
ヲ山林ノ学ニ従事シ時 取テハ彼ノ巨権ヲ得
タル徒ヲシテ尽ク潤澤ノ所得ヲ得セシメタリ
是ニ於テ漸次一人一社ノ所有ニ係レル森林ヲ
伐採スノ諸事皆ナ政府ノ管林官ノ手ニ成リ若
クハ其許可ヲ経ルノ「ト為リシカ就中其監督
管理ノ共ニ其手ニ渉リシ者多キニ至レリ是ヨ
リシテ遂ニ指令ノ権ト称スル者起リテ管林官
ノ掌ル所ト為リ其准允ナケレハ更ニ一木モ伐
ルヲ許サヽルニ至レリ然ルニ当時政府ハ此権
ヲ用ヒテ専ラ各種ノ権利ヲ掌握セン「ヲ謀リ
シ「瞭然ニシテ例ヘハ政府ハ彼ノ一人一社ヲ
シテ其監督ヲ掌ル管林官ノ給料過半ヲ出サシ
メ又例ヘハ軍艦ノ帆艤堡塞ノ柵欄等ノ如キ改
府ノ所用ニ就テハ尽ク出金ヲ須ヒスシテ者ノ
山林中ヨリ最モ善良ナル樹木ヲ選取スルノ権
ヲ生セリ蓋シ國ニ曰テハ政府ノ権尚更ニ甚シ
クシテ常ニ林木ヲ賣却スル者ヲシテ其一「クラ
フテル」ニ就キ若干ト定メタル税餉ヲ納ハシメ
シ者亦少シトセス

前条管轄ノ権ハ諸國相同カラスシテ常ニ日耳
曼西南部落ノ地ハ殊ニ強ク北部ニ在テハ殊ニ
弱カリシト云フ
概スルニ政府モ初メニ於テハ森林ノ利不甚タ
許多ニシテ之ニ適着ス可キ博識ノ管理方ヲ得
ルヿ能ハサリシヲ以テ其監督ノ處置專ラ森林
壞滅ノ弊ヲ防ク一項ニ方向セリ既ニシテ千
七百年代ノ始部ニ当テハ尚未タ真ニ管林官ト
ル可キノ人ナク國ニ曰テハ漸ク同年代ノ末部
ヨリ僅カニ五六十年前ニ至テ始メテ其人ヲ得
シ者之レアリ然ルニ後チ此等ノ管林官中政府
ノ監督一項ニ就キ更ニ温和ノ説行ハルヽニ至
リ而シテ其説ニ云フ抑政府ノ領有セル森林ノ
量甚タ許多ニシテ之ニ加フルニ社會前ニ一社ト記載セ
ル者ニノ森林ヲ以テスル其監督ノ方法宜シキ
同シ
ヲ失フニ非サレハ永久世ノ必要ヲ補フニ餘ア
ル可シ然レハ則チ今又何ヲ民有ノ森林ヲ厳制
スルヲ須ヒンヤト是ニ於テ監督ノ制又稍其面
目ヲ改ムルニ至レリ蓋シ今森林アルノ國々ニ
就キ三者政府社會人民ヲ云フ所有ハ森林ヲ撿査スルニサハ

割合即チ左ノ如クナルヲ知ル

	官有	社有	民有
	百分ノ	百分ノ	百分ノ
屈尓黒西（クルヘッセシ）	六四、	二〇、九	一五、
漢那耳（ハンナル）	五三、六	一三、六	二二、八
巴準理（ハワリヤ）	三七、二	一五、六	四七、二
減丁堡（ゲルテンベル）	三一、四六	四四、二九	二四、二五
黒西（ヘッス）	三一、六	三八、九	二九、三
巴敦（バトン）	一七、六	五一、七	三〇、七
普魯西	三〇、二	未詳	仝上
墺屬阿伯山（アルヤン）	一六	二六、	五八
仏蘭西	一三、八	二一、二	六五、
白耳義	七、一	二七、四	六五、五

前条森林ノ新改正ニ因リ政府ノ特権大約廃滅シテ残ル所ノ者甚タ少キニ至リ唯其所有主ノ一時欠乏ニ迫リテ已レノ森林ヲ拂滅センヿヲ要スルニ当リ政府専ラ世上一般ノ保護ノ為メニ之ヲ存留センヿヲ要シ互ニ相抗拒スルノヿアレハ其所有主固ヨリ森林ノ所有権ノ奪ハルヿ可シト雖モ其他ニ於テハ敢テ政府ノ威権ヲ用フル所ナキニ至レリ

蓋シ右所有主ハ又既ニ拂伐シタル森林ノ地位
ヲ以テ再ヒ樹木ヲ植栽スルニ非ラサレハ須ク
他ノ耕植ニ用ヒサルヲ得スシテ又其伐収法モ
宜シク老練熟達ナル管林官ノ規定セル制法及
ヒ年回ニ從ヒ極メテ理條ニ基テセサル可ラサ
ルノ義務ヲ存セリ然ルニ西ニ曰テハ尚政府ノ
権限更ニ廣クシテ例ヘハ巴敦ノ如キハ民有ノ
森林ト雖モ若シ或ハ管理ノ宜ヲ失ヒ絶カニ壊
滅ノ期アラントスルノ虞慮アレハ尽ク政府之
ニ干渉シ若シクハ其有主ヲ罰スルノ権ヲ有セ
リ又立法上ニ於テ更ニ細思ス可キハ彼ノ臣権
ノ一項ニシテ此権ノ為メ往々森林ヲ損害シ且
ツ其所有主ニ損亡ヲ及ホスノ実ニ除涯ナキ者
ヲシ敢スルニ臣権ハ啻ニ官林ノミニ限ルニ非
スシテ尽ク民有ノ森林ニ於テモ亦往々此
状ヲ為ス者アリ蓋シ本文明是ヲ以テ所有主
解ナキヲ以テ此ニ之ヲ挿註ス
等遂ニ数種ノ方法ヲ設ケ専ラ其臣権ヲ有スル
者ニ若干ノ金額ヲ償ヒ以テ從前ノ義務ヲ免ル
ヽニ至レリ但シ此金額モ現今其臣権ヲ得タル
部落ニ唯暫時間居住スル者ニハ之ヲ與ヘサル
ヿナレモ其事理ニ就テ之ヲ推ス時ハ固ヨリ之

ニ與フ可キノ理ニシテ元来此等ハ積金ト為シ
其部落ニテ之ヲ管理シ啻ニ其現員ノミナラス
将来之ニ移居スル者ニ至ル迄尽ク之ヲ得セシ
ムル方ヲ取ラハ亦以テ正理ノ見ル可キアラン
歟
爰ニ又若國政府ノ須ク熟慮ス可キ要件ト為ス
ハ森林ニ於ル竊盗狼籍ノ害事ニシテ現今到ル
処ノ森林皆此等ノ禍害ヲ受カサルハナク畢竟
彼ノ臣権ノ制又其一部分ヲ鼓舞スルニ至ル古
来其罰殊ニ厳ナリト雖モ之ヲ滅スルノ功甚タ
少シ蓋シ此害ヲシテ特ニ止マシムル所以ノ者
ハ唯リ監察ノ善ナルト一般ノ教育ヲ振耶ラシ
ムルノ二項ヲ出ツルナシ而シテ某ノ地方ニ於
テハ往々火ヲ以テ斯ル狼籍ヲ為ス者之アリ
殊ニ羨甚ト称スルノ森林モ一朝ニシテ忽チ灰
燼ニ化ス実ニ一世ノ憾ト為サヽルヲ得ス日耳
曼ニ於テハ此等ノ所為甚タ少キニ至リシカ尚
森林牧野ヲ包含スル國ニ於テハ恰モ常行ト去
フモ可ナラン例ヘハ希臘ノ如キモ常ニ山林ニ
放火スル者陸続トシテ絶エスシテ同國政府大

ニ之ヲ憂ヒ遂ニ一千八百六十一年ヨリ甚タ
厳重ナル山林律ヲ発令セシヿアリ乃チ斯ノ如
クニシテ諸國政府ハ民ノ父母タル憂慮ヲ以テ
古来永ク山林ニ配意シ國家人民ノ裨益ヲ為セ
シ者実ニ大ナリト謂フ可シ若シ夫レ此等ノ配
意ヲカリセハ地上ノ森林ハ遠ク曩昔ニ消滅シ
今日亦何ソ之ヲ用ヒン蓋シ欧洲古昔ノ村落皆
此弊害ヲ実践セリ

官林ノ理財説

前文既ニ諸國政府ハ洪大ナル森林ヲ領取セシ
所以ノ件々ヲ述ヘシガ蓋シ此森林ヨリ生スル
政府ノ歳入ハ実ニ甚タ大ナル者トス即チ左ノ
概表ニ就テ畧其額ヲ見ル可シ

諸國政府ノ諸山林ヨリ収納セル歳入ノ概
計実額ヲ掲示スル比較表

國名	歳入概計ノ圓数	管轄伐収入費ノ圓数	歳入概計ニ比例シタル割合	歳入ノ実額	山林ノ廣サ	官林ノ廣サヲ全國ノ山林ニ比例シタル割合
魯西亜	〃〃〃〃〃〃	〃〃〃〃〃〃	百分ノ	二五八六五〇〇	八八八六三九三八五	百分ノ六九
佛蘭西	七二六三〇〇	二一〇九一〇〇	七一	五〇〇七一〇〇	八三七四五四	一二/一三
大英國及愛尔蘭	〃〃〃〃〃〃	〃〃〃〃〃〃	〃	〃〃〃〃〃〃	一六六五三六七	〃〃〃〃〃〃

白耳義	……	……	……	……	……	四六四三、四二	町反畝
墺地利	五四〇一九〇〇	四〇八一三〇〇	二四	一三四六〇〇	一三七八九、九一	……	
普魯西	五七四三五〇〇	二八三九九〇〇	五一	二九〇三六〇〇	四二七八、一六	三二八	
巴華里	三三一〇三〇〇	一六四一五〇〇	五〇	六六八〇〇	二四四七、九三	三六七八	
撒遜	一三六〇〇〇	四六四八〇〇	六五	八五一二〇〇	一五三三七、〇、〇	……	
漢那耳	二一九九二〇〇	六八三九〇〇	四一	四七九三〇〇	一七八九四、〇、〇	……	
威丁堡	一九四九五〇〇	七九七三〇〇	五九	一一五二二〇〇	一三七八九、七、六	三一	
巴敦	八一四八〇〇	三三四六〇〇	五九	四八〇二〇〇	六二三、四、三	一七	
黒西馬国	五七六八〇〇	三〇三八〇〇	四七	二七三〇〇〇	六四三、八、三	……	
黒西加塞尔	六七四八〇〇	三七四五〇〇	四五	三〇三二〇〇	一五五九六、五、〇	……	
墺地利	一三五二〇〇	三七八〇〇	七二	九七四〇〇	二六二九、八、三	……	
威馬尔	……	……	……	……	二六七五、一、六	五〇	
白尔尼	九〇〇三〇〇	三七八〇〇	五八	五二二〇〇	未詳	……	

右表中ニ掲クルカ如ク佛蘭西及ヒ墺地利ノ如キハ歳入ノ実額其概計ノ七十一分乃至七十二分ノ多キニ居ルト雖モ独リ墺地利ノ如キハ僅カニ其二十四分ニ居レリ蓋シ今又茲ニ著国ノ唯一官林ノミヨリ収ムル歳入実額ノ多寡ニ従ヒ其順序即チ寡ヨリ多ヲ立ツルヿ左ノ如シ

墺地利　歳入概計百分ノ　二四

佛蘭西　歳入概計百分ノ　七二

漢那耳（ハノーフル）　四一
黒西、加塞尔（ヘッセン、カッセル）　四五
黒西、馬曰（ヘッセン、ダルムスタット）　四七
普魯西　五一
白尔尼（ベルリン）　五八
威丁堡（ウルテンベルク）　五九
巴敦（バトン）　六五
撒遜（サクソニー）　七一
佛蘭西　七二
拿盤（ナッソウ）

古歳入実額ノ大ニ殊異スル者独リ官轄入費ノ異同ニ由テ然ラシムル者ト為ス可キニ非ス元来森林愈善ク氣候愈豊饒ナレハ其結果ヲ得ンカ為メニスル林業ノ費用モ亦愈少キハ須臾モ免レサルノ定理タレハ宜シク此等ノ条ニ従テ之ヲ察セサル可ラス実ニ此項ノ如キハ上表地利カ占スル如キ不饒ノ情況ヲ解スルニ最モ心得可キ事トス蓋シ今日耳曼ノ度法ハ「モルゲン」ハ我一反七ノ「モルゲン」歩二十一歩十八尺ニ当ル ノ官林ヨリ生スル実利ヲ算計スル時ハ更ニ所論ノ旨趣ヲ明ニス可

シ回テ左ニ其計表ノ掲示ス

毎一「モルゲン」ニ就キ

魯西亜	金七厘
墺地利	金十銭五厘
黒西加塞尓（ヘッセンカッセル）	金三十五銭
普魯西	金三十五銭
漢那耳（ハノーフル）	金四十五銭
巴華里（バワリヤ）	金四十九銭
拿撒（ナッソー）	金七十銭
黒西馬回（ヘッセンダルムスタット）	金七十七銭
佛蘭西	金九十八銭
巴敦（パトン）	金一圓三十銭
撒遜（サクソニー）	金一圓四十銭
威丁堡（ウルテンベルク）	金一圓六十一銭

上表ニ就テ之ヲ見レハ威丁堡（ウルテンベルク）ニ於テ一「モルゲ」ンノ官林ヨリ生スル所ハ恰モ魯西亜ノ二百三十倍墺地利ノ十五倍ニ至リ黒西加塞尓（ヘッセンカッセル）及ヒ普魯西ノ如キハ唯彼ノ巴敦（パトン）撒遜（サクソニー）威丁堡（ウルテンベルク）等ノ四分一若クハ五分一ヲ生スルニ過キス漢那耳（ハノーフル）巴華里（バワリヤ）等モ尚官林ノ結果ト称スル者稍少キニ居リ

拿撒黒西馬曰(ナッソウヘッセンダルムスタット)ニ至テハ又更ニ夛ク又仏蘭西ノ
如キハ魯西亜輿地利ノ二國ヲ除キ此等中央歐
羅巴各國ノ平均中数ニ應スルノ産ヲ生セリ

官林管轄ノ制

抑山林ハ政府歳入ノ一大本源タル丁他ノ所領
ニ異ナラスシテ今我カ歐洲各國到ル処皆ナ之
ヲ大蔵省ノ所轄ニ属セサルハ莫シ蓋シ曩者森
林ハ殊ニ王家ノ私有タリシカ後チ夛クハ他ノ
所領ト一般定量ノ年額ト交換シテ漸次之ヲ政
府ニ返與セリ

茲ニ又仏國(森)林ノ管轄制ヲ畧記シテ一例ヲ示
サントス即チ左ニ

仏蘭西ニ於テ森林ノ管轄ハ常ニ大蔵卿ニ附属
セル督職我カ諸寮ノ頭中ノ一人ヲ以テ之ニ任
ス而シテ其司局ヲ名ケテ山林寮ト云フ山林寮
ハ督職一名管理職我カ寮ノ助ノ如キ是ナリ三名以下七課ノ
属員ヲ以テ之ヲ編制ス

右山林寮ニ於テハ啻ニ官有ノ森林ノミナラス
社會等ノ所有ニ係ル者ト雖モ豫テ政府ニ附托
スル者ハ皆專ラ之ヲ管理ス又事ヲ決議シ培養

ノ方ヲ選ビ樹木ヲ伐倒シ其他追加ノ林業(即チ
牧地ノ業等)ヲ起ス等ヲ掌リ又一千八百五十年
八月七日発令ノ法律ニ従ヒ宮林賣下ノ事務ヲ
司リ又臣権免除前ニ記載セル臣権ヲ有スル者
ニテ斯ノ如クスルニハ恰モ我カ日本ニ於テ
士族ニ家禄ヲ奉還セシムルカ如ク之ニ対シ賠償ト
シテ林地ノ一部分若クハ若干ノ貨幣ヲ附與スルノ法ナリ取扱ヨリ一箇
人民ノ已レノ森林ヲ伐収セントスル請願其他
森林部落内ノ家屋ノ建築及ヒ職業ノ准許等ヲ
司リ又其管轄上ニ基ツキ森林ニ害ヲ加フル者
ヲ裁断シ次テ必要ナル裁判上ノ処分ヲ行ハシ
ム

同寮ハ又ナンシー仏蘭西ノ一都府ノ官設山林学校ヲ
督轄シ田猟及ヒ森林部落ノ河川ニ行フ漁猟ヲ
監督ス
蓋シ此等ノ諸件ヲ為ス為メ別ニ法律学士ヲ備
ヘテ之ヲ助ケシム
右森林ノ管轄制ハ常テ一千六百六十九年ニ当
テ有名ナルコルベール氏仏国有名ノ政治家ニシテ常テ月国大蔵卿
ノ職ニ在リシ人ノ定極セル旨趣ニ基ク者ニシテ専ラ
政府ノ保護監督ヲ以テ主要トス蓋シ尓後一千

八百二十七年五月二十一日ニ方リ更ニ法律ノ
発令アリシト雖モ尚其主眼トスル所ハ専ラ森
林ヲ保護シテ其所有主若クハ外人ヲシテ漫ニ
之ヲ敗壊スルノ弊ナカラシムルニ在リタルカ
故ニ是又現今ノ方制ヲシテ増其根ヲ固ウスル
ヲ得セシメタリ
是故ニ右ノ方制ハ曾ニ此等ノ森林ヲ保護シテ
濫リニ伐滅ノ所業無カラシメ以テ暴風激波洪
水等ノ防御ヲ全ウスルノ勢アルノミナラス終
始同量ノ樹木ヲ此ニ保存シテ苟モ彼ノ林地ヲ
変シテ耕田ト為シ渚木ヲ伐テ家屋ニ用フルノ
虚利ニ迷眩スルナキヲ保ス可シ
一千八百五十六年佛蘭西ノ大洪水ハ原ト其河
源ノ近邊ニ於テ大ニ樹林ヲ伐拂ヒシニ由ル
瞭然ニシテ之カ為ノ害ヲ驗
知シ専ラ之ヲ厳禁スルヲ切要トスルニ至リシ
カ尓来現今恐ラクハ増之ヲ制禁シ此項ニ就テ
ハ政府専ラ独恣ノ主権ヲ以テ民有ノ森林ヲ曾
セン但シ此権固ヨリ自ラ官林ニ行フノ大権ニ
及ハサル遠カラン

然ルニ同政府一千八百三十五年五月二十五日
ノ法律ヲ以テ凡ソ年々棧実ノ所入四百万「フラ
ンク」(一「フランク」ハ凡ソ一我十八銭ニ該ル)ニ至ル迄林木ヲ賣却ス
可キノ権ヲ定極シ又一千八百五十年八月七日
ノ法律ヲ以テ年々千五百万「フランク」ノ高ニ至
ル迄之ヲ賣却ス可キノ権ヲ定極シ現今尚専ラ
之ヲ賣却スル所以甚タ疑ハシキニ似タレ𪜈是
又究之ノ以テ止ム能ハサラシムルニ基ツクノ
ミ
既ニシテ現今佛國大蔵省及ヒ山林寮ニ於テハ
荐リニ森林ヲ拂滅スルノ徒アランヲ恐レ眼ヲ
諸ノ森林ニ配テ日夜之ヲ看守シ仮令一圓ノ大
林區々ノ小林タルヲ問ハス其林長(一森林ヲ司ルノ官)
権ヲシテ最モ微少ノ度ニ制限シ日々騎馬或ハ
徒歩ノ森林番卒数千人ヲ巡ラシテ親シク之ヲ
監セシム但シ此等番卒ハ既ニ山林学校ニ生徒
ト為リ年二十五歳ニ満チ山林寮ニ於テ委任ヲ
受ケ裁判所ニ於テ誓約ヲ為セル者ニ非サレハ
其任ニ当ルヲ得ス又此等ハ一切木類ニ関スル
商業ヲ営ムヿ厳禁ニシテ其他公館(例ヘハ浴場、旅宿、酒楼等)

ノ如キヲ去フヲ有テ酒ヲ零賣シ田猟ヲ為シ漁猟ヲ為スヲ許サス又其監査ヲ司ル部落ノ地外ニ於テ私用ノ木品ヲ得ルヲ許サス又其監査上ノ事件ヲ記入スル記録ニハ必ス其長若クハ副長ノ花押ヲ受ケ以テ之ヲ証シ又樹木ニ標識ス可キ鎚印ハ其寫鑑ヲ取リテ之ヲ裁判所ニ出サヽル可ラストス

又官林ハ宜シク博識ナル山林律ニ從テ之ヲ管理シ苟モ大統領即チ現世ノ法典ノ特許アルニ非サレハ預メ雛形ヲモ設ケスシテ漫ニ全林若クハ閉塞シタル林區ヲ伐倒スル丨無カル可シトス

官林ノ材木ヲ賣却スルニハ平常未タ伐ラサル樹木ヲ以テ公然ノ糶賣ニ附スル丨ナルカ此糶賣ノ廣告ハ須ク十四日以前ニ之ヲ為サヽル可ラス但シ暴風等ノ為メニ破爛シタル樹木ハ独リ此例ニアラス既ニシテ其最モ高價ヲ附セル評價者ハ即チ其樹木ヲ得別ニ増價トシテ一割ヲ拂ヒ又其樹木ノ保存修繕ノ費用トシテ三分糶賣ノ入費トシテ一分半ヲ償フ丨ニテ都テ此

金額ハ皆租税頭ノ名ヲ以テ作レル為換手形ヲ以テ之ヲ収ムルノ法ナリ故ニ其消却ハ即チ租税頭ノ任スル所ト為ルナリ然シテ又其樹木ヲ伐収スルニハ専ラ適宜ノ日数ヲ限リ其限内ニ之ヲ行フノ法ナレ𪜈未タ其業ヲ起サヽル前必ス先ツ管林官ニ請フテ其官許状ヲ受ケザル可ラス而シテ其森林ヲ指定シ其一部分ヲ分チ取リ其樹木ヲ伐倒シ又伐倒シタル材木ヲ賣却スル、若シ此ニテ賣却スル時ハ等皆該林総監ノ監督ヲ受テ之ヲ為サヽル可ラス又標印シタル種樹ハ之ヲ伐ルヿ能ハス木皮モ未タ其木ヲ伐ラサル前ニシテ之ヲ剥去スルヿ能ハス許可ヲ得スシテ新タニ道路焼炭場作工場番人ノ居所等ヲ設クルヿ能ハス其林區ニ属セサル境外ノ地ニ在ル家屋樹木ノ側ニ於テ火ヲ焚クヿ能ハス是際ニ当テ若シ其伐開スル所ノ林區及其周囲二百五十「メートル」一「メートル」ハ大凡我以内ノ地ニ於テ禍害ノ生スルヿアレハ其責皆買客ト総監ノ任ニ帰ス可シ茲ニ又官林中撫㝢(カシノミ)ヲ以テ家畜ヲ飼養スルノ権利ヲ糶賣スルノ一方法ア

リ此方法恰モ牧地ノ権ヲ賣却スルニ異ナラス
シテ平常其飼養スル家畜ニハ皆烙印ヲ押シテ
之カ標目ト為サヽルヲ得ス又夜中畜群ヲ森林
ニ放ツヿ能ハス且ツ晝間ト雖モ唯其群集呼ト
称スル路傍ニノミ之ヲ放ツヲ得常ニ漫リニ林
中ノ櫟実等ヲ打落シ或ハ之ヲ取去ルヿ厳禁タ
リ

一千八百三十七年八月一日以来政府ハ漸次各
部落及ヽ製造社等ヲシテ從来附與スル呼ノ扶
助ヲ止メ新タニ之ニ若干ノ森林ヲ附與シ以テ
之カ賠償ト為サシメタリ

然ルニ一千八百二十七年五月十五日ノ法律発
令アリシヨリ以来更ニ新タニ臣権ヲ許スヿナ
シト雖モ然レモ其臣権ノ今日ニ相存シテ尚依
然タル勢ヲ存スル者甚タ多シ是ヲ以テ現今政
府ハ專ラ賠償ノ方ヲ設ケテ該権ヲ免除スルニ
注意スルノミナラス其権ヲ有スル者若シ或ハ
之ヲ拒ムノヿアレハ法律上ノ強壓ヲ以テ之ヲ
通行スルニ至ル蓋シ此免除ノ賠償、或ハ森林
ノ一部分ヲ與ヽ或ハ償金ヲ與フルノ二法トス

而シテ現今大蔵省ハ専ラ下文三項ノ謀議ニ関
係セリ即チ第一ハ専ラ好機會ノ定断スル事第
二ハ償金ノ高ヲ決定スル事第三ハ臣権ヲ有ス
ル者ニ談判ヲ遂クルノ後チ右ノ償金ヲ拂出ス
是ナリ此議案ハ元ト山林寮ニ於テ作ル所ニ係
ルヲ以テ同寮ハ言ヲ俟タス皇領事務局モ亦其
謀議ニ参與ス而シテ今此臣権ヲ有スル者若シ
其免除ノ諭示ニ應セサルカ若クハ他ニ故障ヲ
申出ツルカ若クハ全ク其免除ノ事ヲ拒ム時ハ
専ラ其諭示スル所ノ制ヲ強行スル為メ山林寮

ヨリ之ヲ参事院ノ決ニ附スル1ナリ乃チ斯ル
事故アル時ハ往々又大蔵省ノ関係ヲ生スル1
多シ
各箇ノ部落及ヒ公社製造會社ハ山林寮ニ於テ
等ヲ士
定時ノ伐開ニ適スヘキ者トセル自有ノ森林ヲ
政府ノ督轄ニ附スルノ義務ヲ存シ又各箇ノ部
落ハ同寮ノ発言ニ出テ参事院ノ決スル所ニ從
ヒ事アレハ参議院ニ上告スルノ権ヲ得テ其部
落ニ属スル牧地ヲ森林ニ変シ之ニ山林寮ノ監
下ニ置カサル可ラサルノ義務ニ居ル而シテ総

テ官林ニ属スルノ條例ハ一トシテ各部落共有
ノ森林ニ適用ス可ラサル者アルヿヨリ各
部落ト雖モ森林ヲ管スルニ更ニ自由ノ處置ヲ
為ス可キニ非スシテ其森林苟モ伐滅ス可ラス
又分割ス可ラサル皆官林ト同一ナリ故ニ何レ
何処ニ幾何ノ林木ヲ伐収ス可キハ皆山林寮ニ
於テ之ヲ決シ次テ之ヲ賣ラントスルニ当テモ
又其林官ヲシテ該部落ヨリ人民ノ代員ヲ該ハ
シメ其立會ヲ得テ之ヲ公売ノ糶賣ニ附セシム
ルヲ法トス然レトモ古代員若シ事故アリテ立會
セサル時ハ唯林官ニテ之ヲ扱フモ可ナリトス
マタ部落人民ノ常用ニ供ス可キ材木ハ山林寮
ヨリ之ヲ定示ス然レトモ其常用ニ充ツルノ外ハ
別ニ准允ヲ得ルニ非サレハ之ヲ用フルヿ能ハ
ス又其部落ノ人民ハ山林寮ニ於テ必要トセル
林官ヲ命ス可キノ義務即チ官員ノ給料ヲ出スノ義務ヲ士フ
リテ殊ニ月寮ノ已レニ代テ委任セル人物ヲ不
允スルヿ能ハス又監督ノ費用トシテ其糶賣セ
ル林木若クハ自用ニ供セル林木ノ價金五分ノ
山林寮ニ納メサル可ラス但シ其自用ニ供ル

林木ノ價直ハ山林寮ノ評價ニ由テ之ヲ定
前条ノ情況ニ居ル森林之ヲ名ケテ官林ト云
フ蓋シ政府ノ督轄ニ附ス可キノ義務アルヲ以
テナリ
然リト雖モ一箇人民ノ私有ニ係レル森林ハ固
ト敢テ政府ノ轄権ヲ受ク可キニ非スシテ其有
主ハ更ニ稍自由ノ権ヲ得然ルニ此等ノ森林ト
雖モ又山林律典ノ第二百十九章及ヒ其次章ニ
列ナル数種ノ法律アリテ苟モ山林寮ノ准許ヲ
得スシテ其樹木ヲ伐拂シ若クハ其林業ノ制ヲ
変スルヿ能ハス但シ此等ノ有主ハ常ニ山林寮
ノ評サヽル所アレハ直チニ参事院又ハ州会ヨリ差
議院ニ之ヲ上告スルノ権アリト雖モ今日右諸
律ノ依然ト存シテ専ラ森林ヲ保守スルノ間ハ
仮令此等ノ上告ヲ為スモ何ソ能ク奏功ノ望ア
リトセン
一千八百四十八年ニ当リ森林地ヲ変シテ他ノ
耕植ニ適用シタル者ヲシテ之カ為メ増進スル所
ノ價直中ヨリ二割五分乃至五割ヲ免ヲ以テ
シメ以テ森林ヲ他業ニ変スルヲ抑壓セリ而シ

テ林長一森林ヲ司ルノ官常ニ其森林ヲ伐採フヲ拒ハ
固ヨリ隨意ニシテ妨ナキノ権アレ若シ之
ニ准許ヲ與ヘントスル時ハ必ヌ又之ヲ山林
頭及ヒ大蔵卿ニ伺テ其允許ヲ受ケサル可ラス
加之政府ヨリ結局森林ノ有主ニ指令ヲ通スル
如キハ其時間甚タ長クシテ之カ為メ其有主ノ
志ス所モ到底目循ニ流レ事遂ニ運ハサルニ至
ラシムルヿ多シ
右ノ外又森林ノ制限ト為ス者從来海軍省ニ於
テ造船ニ用フ可キ諸材木ヲ買取スルニ当リ森
林ノ樹木ヲ選取スルノ権ヲ有セシ一項ニ在リ
シカ此権私林一箇人民ノ私有セル森林ヲ云フニ於テハ一千八
百三十七年八月一日ニ於テ停ミ官林ニ於テハ
一千八百三十九年一月一日ニ於テ廃止ニ帰シ
タリ然ト雖モ其官林ニ於テハ此権唯一時ノ廃
止ニ過キサル者ノ如シ
又巨権免除ノ規則ハ官林私林共ニ皆同一ナリ
森林ノ取締規則ハ私林官林互ニ相同カラスト
雖モ然レトモ其建家ニ用フ可キ物料、竹類紙草土
等ノ如キ林産ヲ無法ニ外国ニ輸出シ又ハ

禁シタル山林ノ道路ニ侵入スルヲ禁スル　至
テハ兩林亳モ異ナルヿナク而シテハ斧手斧等
ノ如キ器具ヲ車ヲ以テ林中ニ運ビ辺ミ又森林
ノ境内若クハ其境外一百間以内ノ地位ニ燎火
ヲ焚クヲ禁スルモ亦同一ナリ
官林ノ境内及ビ近鄰ニ於テハ山林寮ノ准許ヲ
得スシテ焼灰竈焼磚竈、人家畜舎、假屋茅廬、木工
場其他材木ヲ以テ工作スル場所ヲ建設スルヲ
制禁ス而シテ此准許ノ如キハ常ニ最モ十分ナ
ル捜査ノ権ヲ得ルニ非サレハ必ス之ヲ與ヘサ
ルヿニテ常ニ此等ノ諸屋ニ裝與スル樹木、枝片
等ニハ尽ク官ノ標印ヲ附シテ後日紛錯ノ時ニ
備ヘントス
又違罰ノ法常ニ甚タ厳ニシテ其主條ヲ掲クル
ハ一ニ罪人ノ品物器械ヲ没収シ二ニ准許ヲ得
スシテ建テタル家屋ヲ毀壊シ三ニ臣権ヲ剥奪
シ四ニ軽犯ハ二圓以上十圓、十圓以上六十圓以
下ノ罰金ニ処シ重犯ハ六十圓以上百二十圓以
下ノ罰金ニ処ス是時ニ当テ若シ全ク無力ニシ
テ之ヲ出スヿ能ハサルノ徒アレハ禁獄三ヶ以

上二ケ月以下ヲ以テ之ニ代フ又再犯ハ更ニ
倍ス刑ニ処スルヿナリ但シ此等罪業ノ発露セ
シ日ヨリ三ケ月乃至六ケ月ノ時間ヲ過クレハ
之ヲ罰スルノ権全ク其功ヲ失フ者ト看做ス乃
チ斯ノ如キノ厳罰ヲ以テ罪犯ヲ懲ラスノミナ
ラス平常許多ノ番卒ヲ置テ之ヲ巡査セシムト
雖モ曾テ罪犯ノ減スルヿナク既ニ一千八百五
十一年乃至五十四年ノ平均中数ヲ以テ之ヲ徴
スルニ凡ソ一年ノ間ニ在テ罪業ヲ犯ス者其数
遠ク七万ヲ超フルヲ知ル

又森林部落三十二縣ヲ分ツテ監査廳一百四十
箇分署四百四十七箇ヲ置キ総監一百五十三名
副監一百九十一名林長三百五十五名番卒隊長
六百五十六名官ヨリ命スルノ番卒二千七百六
十八名各部落ヨリ命スルノ番卒五千五百名ヲ
以テ之ヲ管轄ス故ニ其費用ノ大ナル推シテ知
ルヿ可シト雖モ然レトモ其歳入ノ許多ナルハ又実
ニ愕然タル者ニシテ当今佛國要府ノ之カ為メ
ニ収ムル歳入ノ実額年々五百萬圓ノ余ニ迫ヘ
リ豈ニ亦盛ナリト謂ハスヤ

結論

前文山林ノ事務ニ関スル経済理財管轉等ノ諸条ヲ畧記セシカ条中専ラ日本山林ノ情況ニ切関ス可キ事故ヲ主トシ一ハ外國ノ畧中ヨリ之ヲ秩キ一ハ余カ心ニ記スルノ件々ヲ萃メ交互編纂シテ始メテ巻ヲ為スニ至ル看官以テ内國山林ニ見ヲ及ホスノ一アラハ余カ幸甚シ

爰ニ又結論トシテ前文諸件ノ日本山林ニ切関スル所以ノ概畧ヲ掲ケ余カ一箇ノ鄙見ヲ述ヘントス蓋シ余カ浅識ノ見ヲ以テ漫リニ斯クノ要旨ヲ喋々スル其罪逃ルヽニ所ナシト雖モ幸ヲ幸ニ之ヲ恕セヨ敷惟ミルニ現今日本ノ情況ニ於テ茲ニ省察ス可キ者五項アリ即チ左ノ如シ

第一　抑日本ニ於ル材木薪料ノ用法其宜キヲ失フ昔ノ如ク彼ノ建築法料理術焼料等ノ不全ナルヨリ遂ニ材木ヲ浪用スル実ニ幾何ト去フヲ知ラス甚シキニ至テハ其不十分ナル建築法ヨリシテ往々大火災ヲ生シ一朝ニシテ数百万ノ材木ヲ焼失シ之ヲ補フカ為メ亦殆ント一百

年ノ培養ヲ經タル森林数十里ヲ伐ラサル可ラザルニ至ルヿ常ナリ

第二　又森林ノ伐開法甚タ其宜キヲ失ヒ森林ハ常ニ此処彼処ニ論ナク又其方法ヲ論セス濫ニ其木ヲ伐倒シテ更ニ將来ヲ念トセス更ニ漸次ノ生殖法前文ニ云フカ如ク森林ヲ適宜ノ区数ニ分ツテ漸次此ヨリ彼ニ轉伐スレハ其首初ニ伐倒スルノ森林ハ最終ノ區ヲ伐収スルノ後ニ注意スルナシ蓋シ日本ハ天然甚タ森林ニ富ムノ國タルヲ以テ從来斯ル浪用ノ法ヲ取ルモ尚尽クヿ能ハスシテ生殖スルノ法ヲ得タリシカ是又荏苒トシテ其弊ヲ改メサレハ早晩至大ノ欠乏ニ陷ルノ憂亦免ル可ラス抑現今ノ情況ヲ察スルニ最モ接近シ易キ地位ニ在テハ森林多クハ既ニ伐拂セサルハナシ又更ニ僻遠ノ地ニ在テハ尚之ヲ存スト雖モ人力ヲ加ヘ之ヲ翼賛スル一ナキカ故ニ結局毫モ其繁生ヲ期スル能ハス勢増衰壊ニ帰セシムルノ他ナシ

第三　上文ノ事態ヨリ来ル可キ第一ノ弊害ハ材木遂ニ甚タ不足ト為リ隨テ其價金大ニ騰貴シ現ニ技藝百工造船鋏道等ノ用ニ供ス可キ材

木ニ欠乏スルニ至リ是ニ於テ日本ハ本ト海中ノ一孤島タレハ宜シク航海ヲ以テ諸國ト交通スヘキニ今日ノ情況ヲ以テスル時ハ其將來貿易軍艦等ノ為メニ天ヨリ備フルノ材木ヲ焼テ木炭ヲ製シ或ハ棄テ腐朽ニ帰セシムルノ勢ヲ免レス

第四　又第二ノ弊害ハ河水原泉ノ発出スル山陵ノ林木ヲ伐拂フ時ハ尓来洪水ノ災絶ヘスヨリ迫テ其災増烈シキニ至リ殊ニ降雨ノ量及ヒ時限共ニ定度ヲ失ヒ米田ヲ首メトシ諸種ノ耕

耕ニ至大ノ感響ヲ生シ其害日一日ヨリモ甚シキニ至リ是ニ於テ遂ニ秋収不足ト為リ饑災近キニ兆シ政府ノ歳入減少シ食品ノ輸入盛ントス為リ隨テ貨幣ヲ輸出スル亦増甚シキニ至ラン嗚呼危哉

第五　抑前文ニ述フルカ如キ管轄制ヲ以テスル時ハ森林モ実ニ至大ノ價直ヲ生スルニ至ル者ニシテ國ニ曰テハ其樹木ヲ賣却スルカ為メ國債ノ弁分ヲ済却スルニ至リ（例ヘハ普西亜ノ如キ是ナリ）殊ニ現今各國政府大約皆其官林ヨ

リ至大永続ノ歳入ヲ得(例ヘハ仏蘭西ノ如キハ
年々五百万圓餘ノ大額ヲ収ム)ト雖モ独リ日本
政府ノ如キハ尚依然トシテ旧弊ヲ追々其官林
ヨリ更ニ何等ノ歳入ヲモ収メス斯ル永続歳入
ノ一本源タルモ徒ラニ棄テ公費ヲ補フノ用ニ
供セス豈ニ惜ム可シト謂ハサルヲ得ンヤ

山林經済説畧畢

本文記載スル所ハ過月余カ病ニ臥スルノ日專
ラ病床ニ於テ之ヲ纂シ傍ラ公務ノ餘暇僕寓ニ
於テ輯スルニ係レリ即チ茲ニ閣下ニ呈セント
スス蓋シ浅日ノ業固ヨリ疎漏ノ嘆ナキヲ得スト
雖モ聊カ閣下ニ呈スルノ微衷ニ任スルノミ請
フ宜シク之ヲ容レヨ実ニ山林經済ノ旨趣ハ一
國ノ富盛ヲ扶クル甚タ大ナル者ニシテ苟モ日
本帝國政府ノ如ク民ノ父母タル政道ヲ以テ人
民ノ幸福ヲ増進シ生産ノ道ヲ開進スルニ從事
セル一政府ノ最モ重要トスル所タレハ抑又敢

テ小補ナキニシテアラス

ヴォン、シーボルド　誌